



## 新施設長ご挨拶



しらさぎ荘 施設長  
長谷川親太郎

初めまして。2021年4月1日付けで、しらさぎ荘施設長に就任しました長谷川親太郎(はせがわ しんたろう)でございます。まず簡単に自己紹介させていただきます。東京生まれの東京育ち。慶應義塾大学医学部卒。29年前に当時の国立栃木病院(現在の国立病院機構 栃木医療センター)に赴任。手術部長、副院長を経て、7年前に栃木医療センター院長に就任。7年間院長を務め、この3月末に定年退職。4月からしらさぎ荘でお世話になることになり、大変光栄に感じております。大学を卒業してから医療の世界ばかりを歩いてきましたので、介護の世界は初めてですが、第二の人生と考え、精一杯頑張る所存ですので、ご指導、ご鞭撻をよろしくお願いいたします。

自己紹介はこれくらいにして、しらさぎ荘についてご紹介させていただきます。しらさぎ荘は、医療法人慈啓会の5つある施設の一つです。コロナ禍となる前には、四季折々に様々な行事やイベントを実施していましたが、現在は新型コロナウイルスの施設内感染防止を最優先に考え、多くのイベントを縮小あるいは中止させて戴いております。コロナ禍はまだしばらく続くと思われますので、各種イベント再開までもうしばらくご辛抱いただければ幸いに存じます。なお、医療法人慈啓会には近隣に白澤病院がございますので、入所されている皆様が急な発病などをされた場合には、白澤病院と緊密に連携を採りながら対応させていただきますので、ご安心ください。

一日も早くコロナ禍が収束することで、入所者の皆様がより充実した時間を過ごせ、ご家族の皆様とのふれあいの時間が十分にとれるようになることを、心から願っております。今後ともよろしくお願いいたします。

## 孝子桜 について

桜の季節になりましたね。私事ですが私は桜の中でも、しだれ桜が1番好きです。今回は孝子桜の伝説を簡単にご紹介してみたいと思います。昔、古賀志山のふもとに病氣のお父さんと2人暮らしの孝助が住んでいました。孝助は毎日お父さんの看病をしあと、いつも大きな桜のしたにきて「お父さんの願い。1日でいいから、花をいっぱい咲かせてくれ」と祈り、家に帰っていました。しかし冬に桜が咲くはずもなく、父は、日に日に弱っていきました。どうやら来年の桜の季節までは持ちそうになく、父もそれを分かっているようでした。そんなある夜、父は「孝助お願いだ、明日の朝、桜の下に連れて行ってくれ。」孝助は、夜道をただひたすら古賀志山の山頂に向けて走り出しました。体のあちこちから血が出ていましたが、痛みも忘れ、ただただ祈りました。

朝が来て、孝助は弱々しく軽くなった父を背負い、桜の木に向かいました。桜の木の近くまで来ましたが、孝助は怖くてずっと下を向いて歩いていました。桜の木の下につき、孝助はいつものようにお祈りをし大日様を信じて静かに目を開け顔をあげました。するとそこには、今まで見たこともないような満開の桜が咲きほこっていました。父の目からは、涙があふれ二人で手を合わせると、父は、そのまま息を引き取りました。このことを聞いた村の人たちはその桜のことを「孝行息子の桜」という意味で「孝子桜」と呼ぶようになりました。毎年美しい桜を咲かせ今でも多くの人たちの目を楽しませてくれています。



## 新入職員紹介



橋田 摂子

早くしらさぎ荘の環境に慣れ、仕事を頑張りますので、ご指導よろしくお願いいたします。



鞠子 朋美

全てが初めての事ばかりですが、先輩方に沢山教わりながらこれから頑張っていきたいと思っております。



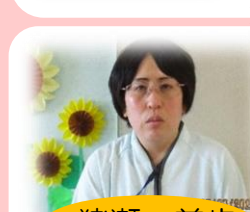
野口 友子

こちらで義母が10年程前にお世話になっていたので親しみを感じています。これからよろしくお願いいたします。私の趣味は散歩とガーデニング、ミニ盆栽も大好きです。



石井 寿奈

一生懸命頑張りますので、よろしくお願いいたします。



猪瀬 美歩

利用者様の笑顔の為に一生懸命働きたいです。

## さくら・春の足音

